

せたがや 町総連だより

第 27 号

発行 世田谷区町会総連合会
世田谷区若林 4-31-9
ポライト第2ビル2F
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 倉本俊幸
編集情報誌編集委員会
編集委員長 鈴木 誠

町会・自治会活性化キャンペーン

平成20年度活性化キャンペーン 町会・自治会の底力をアピールしよう

世田谷区町会総連合会 会長 倉本俊幸

平成18年度に実施した町会・自治会活動調査の結果を見ますと、活動の担い手が固定化している、役員のなり手がいない、加入率が低下傾向にあるといった悩みを抱える会長さんが多いようです。町会・自治会活動の活性化は、良好な地域コミュニティを維持発展させていくために継続して取り組んでいく必要があることとは言うまでもありません。

今年度は、単位町会の課題に応じた活性化の取り組みを進めながら、一歩進めて町会総連合会としての新たな形の活動に着手したいと思えます。

本年7月には、第34回北海道洞爺湖サミットが開かれますが、そこでの最重要課題になるといわれる地球環境の問題は、町会総連合会にとっても大きな課題です。

これまでも、当会では地域の安全・安心などの課題について、事業計画に取り入れ、取り組みを呼びかけてきました。今年度は、未来を担う子どもたちに、いつまでも安全に住み続けられる地球環境を残していくために、すべての町会・自治会の力を結集し、温室効果ガスを削減する取り組みを進めていきたいと思えます。

具体的には、町会総連合会に加盟するすべての町会・自治会が女性部（婦人部）などを中心に、家庭で温室効果ガス（二酸化炭素CO₂）を減らす活動に取り組もうというものです。そして、各町会・自治会の取り組みを、電気使用量のデータを収集することで確認します。今年夏にオリンピックが開催されるため、効果が見えにくいのではと

の声もありますが、各家庭がそれぞれの状況に応じてできることを実行することが大切です。

町総連全体で取り組む意思を表そうではありませんか。

(参考)

2008年第34回北海道洞爺湖サミットは、気候変動が最大のテーマなるといわれています。1992年の地球環境サミットで、気候変動枠組条約が締結され、この条約の目的を達成するために、COP3（第3回締約国会議）で採択された議定書が京都議定書です。ここでは先進諸国に対して、2008年～2012年の間に、1990年比で温室効果ガスの削減が数値として義務づけられました（日本は6%）。

目次

町会・自治会活性化キャンペーン	1	烏山地域	都立松沢病院建替問題	5
町会・自治会交流会の記録より	2	世田谷地域	フェニックス会館のご案内	6
地域情報		北沢地域	地域コミュニティ活性化支援事業を	
玉川地域	今年も満員		3年継続実施して	7
	等々力溪谷公園のたけのこ掘り	行政情報	ごみの分け方・出し方が変わります	8
砧地域	地域の結束でぐるりんバスが走る	編集後記		8

町会・自治会交流会の記録より

平成19年11月12日に開催された「町会・自治会交流会」で活動発表へのコメントーターをお願した株式会社石塚計画デザイン事務所代表取締役石塚雅明氏は、札幌市、川崎市等でのまちづくり活動に造詣が深く、世田谷区の公益信託世田谷まちづくりファンドの審査委員長でもあります。当日は札幌の事例を引用しながらのお話を聞くことができました。

要約して掲載します。

皆さんのお話の中にもありましたように、地域のまちづくりというのが非常に大きなテーマになっている時代ではないでしょうか。札幌でも、町内会が中心になって頑張らなければいけない、行政任せにもしておけない、ということ、NHKの「近所の底力」みたいな、いろいろな活動

が始まっています。その背景には、阪神淡路の大震災の教訓があったりしたのですが、例えば羽根木プレーパークのような子ども達のいきいきとした顔に出会えるのは、行政の力じゃなくて住民の力でできあがっています。住民の中からまちづくりを進めていきましよう、という動きを進めてお

ります。その動きの黒子になってるのが、札幌のまちづくりセンターです。世田谷でも出張所を「まちづくり出張所」という形に一部名前を変えて、全体でもまちづくりの支援センターとしての役割を強めていきましようという取り組みをされていくようですけれども、札幌もほぼ同じ時期に「まちづくりセンター」と名称を変更して、市民自治によるまちづくりを推進するための、地域のまちづくり活動

の拠点としています。札幌は180万人都市で、市内87カ所にありますから、およそ中学校区に1カ所、人口1万から3万人を対象としています。所長さん1人が常駐して、あと嘱託の方お2人という体制で、地域のまちづくりを支えています。

地域ぐるみ地域課題や解決方法を話し合うという取り組みが行われました。これは、今までは、町内会の皆さんは、町内会の役員さんを中心に、地域の福祉をどうする、あるいは防災をどうするなど、いろいろ悩まれていると思います。しかし、固定したメンバーで、高齢化をしている中で、できることには限界がある、と半ばあきらめていた感じがありました。

まちづくりセンターの所長さんたちの働きかけによって、そういう問題は地

域ぐるみで話して、地域ぐるみで解決する道を探ってみませんか、ということ、これは小学校の体育館を借りて、160人以上の住民の方が集まって、地域の課題を見つめ、解決策を探った取り組みです。3回の会議でしたけれども、2回の会議が終わった時に、もうすでに、いくつかの活動が立ち上がりました。

話し合いだけではなく、解決の取り組みが大切だという動きになりました。最後にまとめてくれましたけれども、地域のまちづくりを元気にするポイントということとで6つにまとめてみました。

6、ねばり強く地域に広く伝える

大切なのは、義務じゃない、やっている自分が楽しいということ。そして、ひとり頑張ったり、町内会や自治会だけで頑張らない、いろいろな団体の方の力を合わせて取り組む。そして、大切なのは、地域の関心の高いテーマに取り組むということ。例えば、歩くのが大変になったお年寄りの買い物の問題ですか、荒れ果てた公園の管理の問題、そういうテーマにあわせて、多くの人と一緒に汗を流せる現場を持つということが大切なんじゃないでしょうか。

- 1、義務じゃなく、やっている自分が楽しい
- 2、ひとり(町内会や自治会)だけで頑張らない
- 3、地域の関心の高いテーマに取り組む
- 4、多くの人と一緒に汗を流せる現場をもつ
- 5、誰もが参加しやすい入り口をつくる

玉川地域

今年も満員等々力溪谷公園のたけのご掘り

玉堤町会長 齊藤重男

等々力溪谷保存会・会長
大平喜重主催のたけのご掘り
りが4月19日(土)午前10
時~12時「等々力溪谷内」
にある世田谷区立等々力溪
谷公園の竹林で区内に住む
親子連れなど30組、約90名
が区報の抽選で当選。今回
で3回目、30組の募集に1
27組公募があったそうで
す。何よりお天気が心配さ
れるなどしましたが、この
日は雨もあがり、普段は入
ることができない竹林に
入ったの貴重な体験、この
ような体験をするには都心
から遠く離れた所までいか
ないとできません。

自然環境に恵まれた玉川
地域、採れたてのたけのこ、
おいしかった。多勢の人の

手によって育まれている自
然の食物、11月にはみかん
狩りがあります。またみん
なで参加しましょう。

子ども達は公園管理事務
所の皆さんに教わりながら、
今流行ってい
る竹の材料を
使ったの物づ
くり。お昼は、
保存会婦人部
が作ってくれ
た取れたての
たけのこは
んに、たけの
このみそ汁。

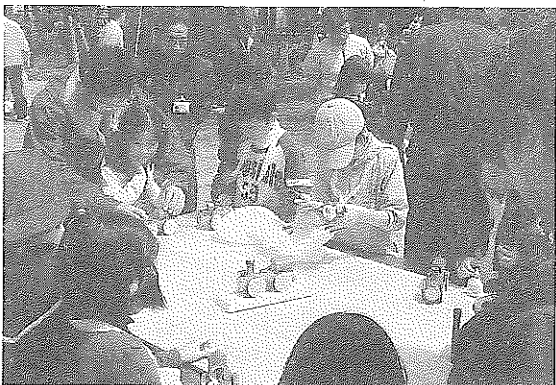
自然の中で総
勢220名以
上で食べる食
事、お代わり
ができるので



大人も子どもも大喜び。来
年もお願いしますの聲が多
くきかれました。
等々力溪谷保存会のみな
さんはじめ、世田谷区玉川
総合支所、等々力まちづく

り出張所、公園管理
事務所の皆さん、せ
つかくのお休みなの
に朝早くから集まっ
ていただいている
な準備、お疲れさま、
ありがとうございました。

行政や地域と力を
合わせ成功させた行
事。大変だったけれ
ども同じ目的で集ま
る事が地域の交流と
まちの活性化に繋が
ります。



砧 地域

地域の結束でくるりんバスが走る

祖師谷千歳台自治会会長 神宮 寿夫

25万1989人、これは循環バス開通後1年間の利用者総数で、1日平均688人の予想を超えた乗客数である。

世田谷区内で公共交通不便地域である、祖師谷大蔵駅北部地域に、ミニバス運行計画が地元で初めて提示されたのは、平成16年6月で、町会自治会・商店会等各種団体をはじめ、多くの住民は、この朗報に喜び大きな期待を寄せた。且つてこの地域は、昭和30年代に祖師谷大蔵駅と烏山駅間の路線バスが走行し、住民が利用し親しまれていたが、40年に路線バスが消えて以来、住民は不便の日を送っていたのである。後日バスを所管する区の交通企画課より運行計画の説明会が、祖師谷と成城の2ヶ所で開催された。

催された。まちづくり出張所で開かれた祖師谷地域の会場は、大勢の住民で溢れる程で関心の大きさを示した。

担当者より、運行の目的等説明がされた後、意見要望を地元から受ける。多くの要望は、狭い商店街を歩行者の安全確保のため、商店街として指導の徹底を協力することが最大の要望である。地域として計画の運行は全面的に賛成が大勢の意見であった。次に開催された成城地域の説明会は、参加者は予想より少数で祖師谷地域と対比して温度差と関心度が低調に感じる。一通り説明の後地域の要望意見に入る。目的趣旨共に賛成であったが、計画コースについて反対と多くのコース案が出され、理由と

終る。住民に大きな希望と期待を抱かせ、本格運行を待つばかりであった。

他地区の一部から反対意見があり、これに対し祖師谷地区町会自治会連合会はじめ、各種団体の会長を討議対処するため緊急招集した。祖師谷地域として、「明確に意思表示する必要がある」として、「祖師谷成城地域を循環するミニバスの早期促進を求める陳情書」を衆議一決、各団体毎に署名運動を開始する。議会提出の期限まで5日間を目途に一斉に展開した。地域の熱意と行動は忽ち4396名の署名がまとまる。3月11日区議会に陳情書を提出した。これと併行して、地域警察署長と面会し「公共交通バス開通の促進に対する要請書」を手交し、理解と協力を申し入れる。



国土交通省より認可が下りるまで、企画課主催の運行バスの名称やバスのアイディアスケッチ等の意見交換打ち合せ会が両地域代表が出席し協議を開催するなど、着々と準備を進行していた。一日千秋の想いで待っていた国土交通省から認可は下りた。平成17年11月21日、世田谷区から待望久しかったGOサインである。地域関係方面に連絡する。皆喜びに溢れた。晴れの開始式は12月19日と決定。開始式の報告をかねて換

抄に成城警察署長に面会、報告をする。署長は喜んで当日白バイ、パトカーを出し協力しよう私も出席すると快諾された。

開始式は好天に恵まれ、会場の駅前は大勢の地域の人達が笑みをたたえ明るい表情、来賓からも祝詞が交わされる。熊本区長、区議会関係、総合支所長、成城

警察署長等々と大勢の来賓が列席して盛大に開催、テープカットに続いて白バイ・パトカーが、今後地域で大役を担うくるりんバス

が地域の大勢の人達を乗せ、先導して発車する。想えば40年振りにバスが帰ってきたこの感激は無量。祖師谷のまちに新たな1ページが加えられた。最近の統計で

は27出張所中祖師谷が区内で高齢化率が一番高いという。実現できた最大の原因は、祖師谷は団結力が強く

住む住民は奉仕の精神に富んでいる。狭い農道に対し、バス運行に対しては自ら積極的に拡幅に、バス停に敷地を提供するなど、人間性が豊かな人達が多い事ではないかと確信している。

烏山地域

都立松沢病院建替問題

上北沢町会会長

新井 貞次

松沢病院は、大正8年に創立され、約90年を経て、現在に至っています。昭和30年代に向精神薬が開発され、精神科医療は飛躍的な

住宅・社会復帰病棟等です。病床規模897床、外来規模550人程度となるこの松沢病院「精神医療センター」は、災害拠点病院に

に建設が進められている研究棟があります。東京都医学総合研究所と別棟があり、次の3研究所が入ります。

- 一、東京都精神科学総合研究所
- 一、東京都精神医学総合研究所
- 一、東京都臨床医学研究所

今この病棟は昭和37年頃に建設され、老朽化が進み、このたび新しく「精神医療センター」(仮称)として整備計画が示されました。

主要な建物は、新館(新病棟)・医療観察病棟・職務

備になるそうです。松沢病院敷地内では、先

臨床医学総合研究所につきましては、二重三重の安全対策を講じてもらうよう要望をしております。

当初、上北沢町会では、安心して生活できるまちづくりのため「医療観察病棟」の建設に対し、平成19年5月の総会で建設反対決議を行いました。

その後、「松沢病院内医療観察病棟建設反対の会」を設立し、運動を始めました。

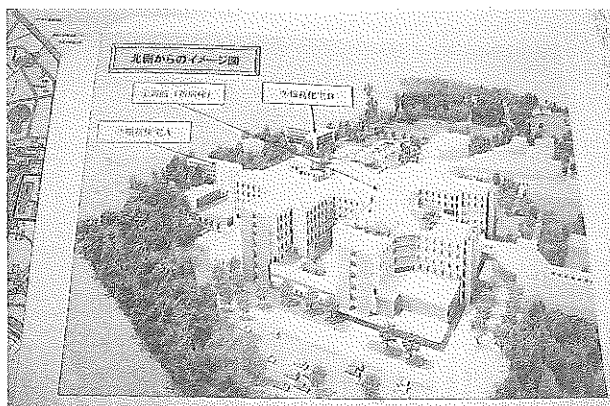
一方、私たちは、本建設計画について、早急に地域安全対策を具体的に検討すべきであると

考え、上北沢町会自治会連合会も加わり協議を進め、請願事項として、「医療観察病棟の具体的な地域安全を確立するため、都と、地域住民代表からなる協議の場などを設置し、早急に協議を開始してもらう」ことを地域代表の協力のもと署名

活動を実施し、続け

てまいりましたが、その途中において、東京都より、地域から出された要望に対し、良い方向を見出すため「連絡協議会」を設置し、今後は進めていくとの回答をいただくことができました。

今回、病棟の建て替え問題で、署名などにご協力いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、一層のご協力を得て、建替えに関し、今後「連絡協議会」の場で話し合っ行ってきたいと考えています。



世田谷地域

フェニックス会館のご案内

池尻団地自治会 高橋英嗣

去る、2月29日、皇太子殿下をお迎えし、都立青鳥養護学校60周年記念式典とフェニックス会館の完成を祝い、殿下より、お祝いのお言葉を頂戴いたしました。子どもたちにも優しくお声かけを戴きまして、ほんとうにありがとうございます。

さて、青鳥養護学校に以前は寄宿舎がありました。就労環境を考え、物づくり



作業から事務・福祉・サービスマニエール等に重点をおいた4つの部門を持つ作業室（喫茶・食品加工・事務・清掃）に変わり、新しくフェニックス会館となりました。このように、主に生徒の卒業後の自立と社会参加を目指し豊かな地域生活の実現を可能とする力量形成の学習の場として、卒業生や地域の住民も参加し、充実した生活訓練が出来る場と

してオープンしました。

特に喫茶店は一般の方々も気軽に立ち寄れる喫茶室として、廉価でお茶をご用意致してあります。ここでは接客・飲み物サービスを通じての対人的スキル・マナー等を学んで貰います。

さらにその伝票整理、用品の管理・チラシ作成、売り上げ等を通してのOA処理能力（パソコン室）も身に付けて実社会に出てすぐ

にでも就労出来る様な環境にしたいと考えておりますので、一般のお客様もご来店の際は、先生になつていただき、ご指導を賜りたいと考えております。また、地域との連携を深めるため多目的室

など研修・会議等に使用していただける会場もご用意させていただきます。お気軽に運営委員会にご相談下さい。

2階の生活訓練室には、宿泊訓練室を設けています。ここでは、実際

に生徒が学級単位で宿泊し、1年生は生活能力のチェックを行い基礎的な生活力（1人で寝る、起きるなど）の改善充実、2年生は応用的な生活力（どこかに出かけるなど）のための準備、帰ったあとの生活など）の向上、3年生は卒業後の生活を想定して自立した就労生活力の形成（宿泊しながら実習先へ通うなど）を目指します。

多目的室（カンファレンスルーム）は研修、会議を含め様々な活動、活用が出来るよう視聴覚機器やスクリーン、楽器などを置き、机椅子も収納可能な施設になる予定です。

学習室は作法（マナー）の基礎・基本学習の場として日本の文化伝統である茶道等が出来る様な設備も設けます。

作業学習は「フェニックスワークス」という一つの作業として行い、喫茶・食品加工・事務・清掃の4つの作業部門を持ち、相互に

関係を強く意識しながら運営を行います。従来の作業学習は、各作業単位で独立して作業をしていたのですが、フェニックスワークス

という作業の中に4つの部

門があり互いに関係しあつて一体化した形で展開する

というものです。そのため、4作業部門共通の技能（挨拶・整理・整頓など基礎基本）を大事にして各部門連携の会議も持たれる予定です。そして生徒の興味関心の度合いや適性によって得意分野の作業、好きな作業が出来れば、その作業部門で習熟させ就労へと結び付けられると思います。

さらに、どの程度の力がついたかを確認するための職業検定を導入する予定です。

障害者を取り巻く環境は、大変厳しい状況です。学校を卒業しても中々、就労に結びつかないのが現状です。

この現状を打開するには発想の転換・活用力を十分に生かす事が大事です。そのためには、教育相談室を設け、卒業生・地域・在校生・先生方達が、積極的に加わるべきです。関係機関との連携も更に深めて行く事も大事なことです。知的障害児への理解推進のため

に、是非、皆様からも建設的なご意見をいただきさらに良い運営が出来る事をめざします。

北沢地域

地域コミュニティ活性化支援事業を

3年継続実施して

豪徳寺二丁目町会会長 植松 敬

豪徳寺二丁目町会は古刹豪徳寺と世田谷城址を中心に広がる人口約2300人、殆どが住宅地で閑静な町です。町会の歴史は古く54年を経過しています。

世田谷区が平成17年に新規事業として施行した、地域コミュニティ活性化支援事業に応募、以来平成19年



迄3年継続して応募承認されたのでその経過と実績を取りまとめご報告します。

この事業は世田谷区が「地域のコミュニティの原点は隣近所のつきあいであり、その積み重ねが、災害時に大きな力を発揮する」、その「地域の人と人との繋がりを作る事業を支援する」という、町会にとつて誠に有り難い事業だと、役員会に諮り町会事業として、3年継続して実施しました。事業はメニュー方式で①⑥の項目の中から選んで実施するもので、豪二町会は⑤の「まちのことを知らせたいく」を選びました。

事業の経過

- 平成17年度
 - ① 町会未加入世帯・未加入マンション等の解消活動を

目標に町内の番地毎の未加入世帯の実態を調査し、個別訪問し町会加入を薦めた。

② 町会活動のPR誌として発刊した町会50周年記念誌を増刷し説明資料とした。

③ 城山小学校、PTA、おやじの会と地域コミュニティ交流会を開催、町会活動を説明、理解を得ると共に登下校時の児童の安全確保、学校ニュースの町内回覧等を町会活動に導入しました。

○平成18年度
地域のコミュニティ活動活性化の手段として町会活動をまとめたスライド(100コマ)とスライドシナリオを作成、町会諸行事に上映、町会員や地域住民の町会活動への参加と町会活動への協力、町会未加入世帯の町会加入等の啓蒙を行いました。

○平成19年度
前年迄の活動結果を役員に諮ったところ「町会の組織と活動について説明不足」との意見で資料「町会の組織と活動」を作成。内容は写真と図解を主とし、理解しやすい資料を作成できた。資料は町会員全員に配布、また交流会等の教材とした。

○平成19年度

前年迄の活動結果を役員に諮ったところ「町会の組織と活動について説明不足」との意見で資料「町会の組織と活動」を作成。内容は写真と図解を主とし、理解しやすい資料を作成できた。資料は町会員全員に配布、また交流会等の教材とした。

3年間の総合結果

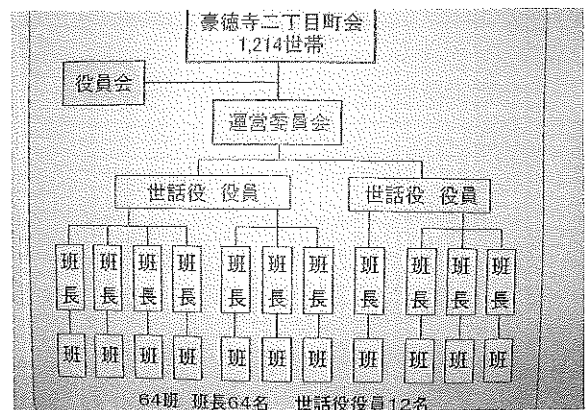
① 町会未加入世帯の実態が把握でき、町会の加入率が意外に高い事が判明し、大きな収穫でありました。

② 町会の組織が優れている事が確認できた。特に班組織が出来ている。班毎に班長がいて班員を掌握してくれている。班毎に会員の協力がある事が認識できた。

班の組織は町会の誇り

豪徳寺二丁目町会は地域担当役員↓班長↓班員と徹底した縦組織が築かれていて、豪徳寺二丁目町会が誇る組織であります。この体制が現町会の何よりの強み

であり財産であります。町内を番地毎に32班に分け、さらに班によって班内を細分化し全体で64区分あり、区分毎に班長を置いています。また町内を大きく、12区分し、地域担当役員がそれぞれ分担しています。つまり地域担当役員↓班長↓会員の縦組織が確立していることです。いま時縦社会というとき驚きに思われるかも知れませんが、一朝一夕に出来る組織ではありません。先輩達が苦勞して作り上げてくれた有り難い組織だと思っています。一方町会行事への参加が



少ないのは町会行事に参加したくとも参加できない世帯が増加している。町内では少子高齢化、核家族化と高齢孤立者の増加、一方、共働き世帯の増加、子育て主婦の孤立化が進み深刻な問題である事が判明し、これの対策が緊急課題であり、その基盤となる地域コミュニティ活性化が最大課題である事が明確となりました。

今町会に求められている最大課題は班の絆を固くする地域コミュニティの活性化である。隣人同士の「知りあい、ふれあい、支えあい」の活性化が町会の緊急課題で、町会活動の重点活動として対応したい。

自費になるが、年度毎に発行した3点の資料とスライドは、町会の活動記録の収録、地域の歴史の紹介と併せて、後世に残る資料が整備できたことは画期的でした。最後に町会の最大課題である地域コミュニティ活性化支援という、時宜を得た施策を立案施行された世田谷区に感謝する次第です。

町会長交替のお知らせ

平成20年6月6日現在

地域	町会・自治会名	新会長	前会長
世田谷	太子堂1丁目町会	千田文里	山岸秀雄
	太子堂2丁目大塚町会	鳥居宏至	鳥居宏至 (会長代理)
北沢	野沢4丁目町会	田嶋 宏	赤柴安元
	大原北町会	遠藤幸一	磯 正格
玉川	奥沢中和会	毛利英和	板谷英宣
	野毛町会	大島一孔	杉田久男
砧	馬事公苑前ハイム管理組合	川崎洋介	山下兼弘
	世田谷船橋郵政社宅自治会	柳沢憲一	佐々木登志男
烏山	喜多見中部町会	田中孝明	早川孝通
	砧町町会	汐見敏治	大島弘之
烏山	大蔵東部町会	加藤 猛	之内藤壽昭
	都営第一八幡山自治会	仁藤 栄治	櫻井茂利男
烏山	コートヒルズ久我山自治会	古内吉美	太田俊彦
	烏山北住宅自治会	塚本吉男	志村 広
烏山	北烏山みむね管理組合	工藤 恒太郎	橋谷トミ

理事交替のお知らせ

地区	新理事	前理事
池尻まちづくり出張所	芦川幸三	高橋英嗣
太子堂出張所	秋田 仁	田中清子
代沢まちづくり出張所	堀江鉄 拓	山岸秀雄
九品仏まちづくり出張所	矢島 嗣久	篠塚昭宏
上野毛まちづくり出張所	毛利英和	板谷英宣
喜多見まちづくり出張所	大島一孔	杉田久男
上祖師谷まちづくり出張所	田中孝明	早川隆通
	水野 貞	櫻井茂利男

行政情報

ごみの分け方・出し方が変わります

清掃・リサイクル部事業課

皆さんは東京23区で「ごみの分け方・出し方」が変わるのはご存知ですか？

現在、世田谷区でも区内約1割の世帯をモデル地区として「新しいごみの分け方・出し方」にご協力をいただいています。まだ区内全域では実施していませんので、モデル地区以外にお住まいの方は、引き続きこれまでどおりのごみの分け方にご協力をお願いします。

いつからごみの分け方が変わるのかー現段階では、今年の秋、10月頃に区内全域でごみの分け方を変更する予定です。

正式な開始時期は広報紙などでもお知らせするほか、開始前には各ご家庭に、新しいごみの分け方・出し方の詳しいチラシをお配りする予定です。

皆さんにはご不便をおかけしますが、一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

地球温暖化が叫ばれている中、今年に入ってミャンマーを襲ったサイクロン被害、そして、中国四川省における大地震と大きな災害が続いております。

地震のような災害はい

つくるかわかりませんが、環境対策は、自分達で取り組んでいくことができます。

本誌の一面に倉本会長が述べていますように、町総連全体が協力して、未来を担う子どもたちに、安全で住みやすい地球環境を残すためにも、皆様のご協力を願います。

編集委員 鈴木 謙二